

3. 児童生徒が帰宅途中に行方不明になった場合の対応

1. 日頃から留意すべき事項

○児童生徒や保護者への指導

- ・一人ではなく、友だちと一緒に登下校する。
- ・誰であっても、絶対について行かない。
(よく知っている人でも、車に乗ったり、家に上がったりしない)
- ・無理やり連れて行かれそうになった時は、近隣の家やお店等に逃げ込むか大声で助けを求める。また、そのような事態に遭遇した場合は、すぐに保護者や教職員に連絡する。
(保護者等が、不審者を見かけた場合は、すぐに110番通報する)

○学校の対応

- ・早退させる場合は、原則として保護者に来校を依頼し、引渡しを確実に行う。
- ・通学路周辺にある「こども110番の家」の場所や利用の仕方を児童に知らせる。
- ・PTAや地域の健全育成協議会等との連携を密にし、事件、事故防止に努める。

2. 緊急対応のポイント

＜具体的事例＞

小学4年男児の保護者から担任に連絡があり、暗くなっても子どもが帰宅しないので、友人宅に問い合わせたら、帰宅途中、大人の人に誘われ一緒に車に乗ってどこかに行ったとのことである。

保護者からの連絡



校長の対応

- ・校長は警察に連絡し対応を相談するとともに、緊急の生徒指導委員会等を招集する。
- ・情報を収集し、整理する。(担当：教頭等が担当)
- ・学校教育部に連絡し、対応を協議する。
- ・担任等が中心となり、児童生徒等から情報収集を行う。その際、被害者のプライバシーや他の児童生徒等に不安を抱かせないよう配慮する。
- ・マスコミへの対応については、窓口を一本化し管理職があたる。



関係機関との連携

- ・校長は直ちに警察に連絡し、状況の説明と捜索等の対応を依頼する。
- ・保護願いは、保護者が出すものであるが、学校も保護者と同行し、できるだけ詳しい情報を警察等に提供する。



緊急の生徒指導委員会等

- ・保護者からの情報も含め、できるだけ情報を収集し、整理する。
- ・対応策を決定する。

関係機関の協力を得る。

全教職員で校区等を搜索する。

P T Aや自治会等の協力を得る。 など



緊急の職員会議

- ・状況を説明し、情報を収集する。
- ・指揮系統を一本化するとともに対応方針を説明し、組織的に対応する。



P T Aや自治会との連携

- ・P T A会長や自治会長に状況や対応策等を説明し、保護者や地域の方に不安等を与えないよう配慮する。
- ・必要な場合は、P T Aや自治会等の協力を得て組織的に搜索を行う。

○警察署への家出人等に関する保護願の届出について

◆届出先

- ・当該児童の居住地を所轄する警察署

堺警察署 : Tel223 - 1234

北堺警察署 : Tel250 - 1234

西堺警察署 : Tel274 - 1234

南堺警察署 : Tel291 - 1234

中堺警察署 : Tel242 - 1234

黒山警察署 : Tel362 - 1234

- ・窓口：警察署の生活安全課

◆届け人

- ・保護者又は後見人

(服装や行動範囲等、子どもの様子をよく知っている者が同伴する)

◆必要なもの

- ・写真：最近撮影したもの（できるだけ子どもの顔がはっきり判るもの）
- ・印鑑

※保護願を出した当該児童が帰宅した場合、直ちに警察署の生活安全課まで連絡する。

3. 事後の対応のポイント

登下校時における緊急対応が発生した場合は、事態が収拾した後、児童生徒等の心のケアを行うとともに、情報を整理し、調査・報告を行い、再発防止につなげる。

(I - 6「心のケア」参照)